

番号：150841

国名：カンボジア

担当：農村開発部農業・農村開発第一グループ第一チーム

案件名：持続的な海洋養殖生産技術開発プロジェクト詳細計画策定調査（評価分析）

1. 担当業務、格付等

- (1) 担当業務：評価分析
- (2) 格付：3号～4号
- (3) 業務の種類：調査団参団

2. 契約予定期間等

- (1) 全体期間：2015年11月中旬から2016年1月中旬まで
- (2) 業務M/M：国内 0.50M/M、現地 0.67M/M、合計1.17M/M
- (3) 業務日数：準備期間 5日、現地業務期間 20日、整理期間 5日

3. 簡易プロポーザル等提出部数、期限、方法

- (1) 簡易プロポーザル提出部数：1部
- (2) 見積書提出部数：1部
- (3) 提出期限：10月21日(12時まで)
- (4) 提出方法：専用アドレス (e-propo@jica.go.jp) への電子データの提出又は郵送(〒102-8012 東京都千代田区二番町5番地25二番町センタービル) (いずれも提出期限時刻必着)

※2014年2月26日以降の業務実施契約(単独型)公示案件(再公示含む)より、電子媒体による簡易プロポーザルの提出を本格導入しています。

提出方法等詳細についてはJICAホームページ(ホーム>JICAについて>調達情報>調達ガイドライン、様式>業務実施契約(単独型)(2014年4月以降契約)>業務実施契約(単独型)簡易プロポーザルの電子提出について)(http://www.jica.go.jp/announce/manual/form/consul_gt/20150618.html)をご覧ください。なお、JICA本部1階調達部受付での受領は廃止しておりますので、ご持参いただいても受領致しかねます。ご注意ください。

4. 簡易プロポーザル評価項目及び配点

- (1) 業務の実施方針等：
 - ①業務実施の基本方針 8点
 - ②業務実施上のバックアップ体制等 2点
 - (2) 業務従事予定者の経験能力等：
 - ①類似業務の経験 45点
 - ②対象国又は同類似地域での業務経験 9点
 - ③語学力 18点
 - ④その他学位、資格等 18点
- (計100点)

類似業務	農水産分野に係る各種評価調査
対象国/類似地域	カンボジア/全途上国
語学の種類	英語

5. 条件等

- (1) 参加資格のない社等：なし
- (2) 必要予防接種：なし

6. 業務の背景

カンボジアの水産業は、同国 GDP 全体の約 1 割を占め、人口のおよそ 30%にあたる 400 万人が、直接または間接的に従事しているなど、カンボジアの国家経済にとって重要な役割を果たしている。また、同国民が摂取する動物性タンパク質の約 8 割が水産物から摂取しており、水産業は食料安全保障の面からも重要性が高い。

カンボジアの漁業生産量は、2014 年の総生産量は 745,255 トンであり、その 67.7%に相当する 505,900 トンは内水面漁業によるものである。海面漁業及び養殖生産量はそれぞれ 16.1%の水準である。一方、過去 10 年（2004 年から 2014 年）における伸び率でみると内水面漁業は 2.0 倍、海面漁業 2.1 倍に対し、養殖は 6.4 倍増となっている。今後とも養殖、とりわけ魚類養殖について生産量の増加が期待される。

カンボジア国民の海面養殖魚の需要は増加傾向にあるが、海面養殖技術が十分に開発されておらず、国内に人工種苗を生産する業者が不足しており、養殖業者及び養殖農家は天然種苗や品質の悪い輸入種苗を用いていることから、天然種苗採捕による自然資源への圧力及び輸入種苗由来の魚病の発生・蔓延が懸念されている。さらに、近年の経済開発、気候変動及び過剰な漁獲による沿岸水産資源の減少も危惧されている。

このような状況を踏まえ、水産局は、「国家戦略開発計画 2009-2013 及び 2014-2018」の一環として、「水産分野の戦略的開発フレームワーク (Strategic Planning Framework for Fisheries 2010-2019)」を策定し、持続的利用が可能な水産資源の管理、保全及び開発を目指し、漁業生産（稲田漁業を除く）の維持、稲田漁業生産及び養殖生産の振興を図っている。

我が国は、無償資金協力を通じて、海産種苗生産及び養殖技術開発、技術普及のための研修・教育を行う「海洋養殖研究開発センター (Marine Aquaculture Research and Development Center : MARDeC)」を整備（2012 年 3 月完工）するとともに、「漁業制度改善アドバイザー（養殖）（2011 年 1 月～2013 年 3 月）」を派遣し、同センターの運営支援を行った。さらに、施設建設後 3 年にわたり、MARDeC 職員の能力向上を図るために種苗生産及び魚類防疫の短期専門家を派遣し、魚種バラマンディ (*Lates calcarifer*) の種苗生産及びそれに係る魚類診断などの防疫体制の整備を支援した。その結果、*Lates calcarifer* の種苗生産量はゼロから年間 7 万尾に達したものの、同センターの概略設計時の年間 40 万尾の生産目標は遥かに下回っている。

かかる状況を踏まえ、農林水産省 (Ministry of Agriculture Forestry and Fisheries : MAFF) 水産局 (Fisheries Administration: FiA) は、*Lates calcarifer* の健全な種苗生産体制の確立及び新魚種の種苗生産技術の開発を目的に、我が国に技術協力を要請した。

本詳細計画策定調査は、技術協力プロジェクトの実施に向けて、カンボジアにおける海面養殖の現状、MARDeC における海産種苗生産及び魚類防疫に係る能力、体制、課題等を確認し、収集した情報を分析・整理した上で、カンボジア側とプロジェクトの協力の枠組み（上位目標、プロジェクト目標、成果、活動、指標、協力期間、実施体制、投入等）について確認・協議し、プロジェクト実施に関する合意文書 (M/M: Minutes of Meetings) の締結を行うとともに、事前評価を行うことを目的とする。なお、海洋養殖に係るアジア地域機関との連携も視野に入れ、本調査内容を検討していくものとする。

7. 業務の内容

本業務従事者は、技術協力プロジェクトの仕組み及び手続きを十分に把握の上、他の業務従事者や調査団員として派遣される当機構職員等と協議・調整しつつ、評価 5 項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性）に基づく事前評価に必要なデータ・情報を収集・整理し、分析するとともに、協力計画策定のために必要な以下の調査を行う。なお、当機構の事業評価における評価基準・手続きについては、監督職員より情報提供を行う。

具体的担当事項は次のとおりとする。

(1) 国内準備期間 (2015 年 11 月下旬)

①要請背景・内容を把握（要請書・関連報告書等の資料・情報の収集・分析）の上、現地調

査で収集すべき情報を検討する。カンボジア側関係機関（MAFF 及び FiA）、欧州連合（European Union:EU）等の他ドナー、東南アジア漁業開発センター（South-East Asia Fisheries Development Center: SEAFDEC）及びアジアパシフィック養殖ネットワークセンター（Network of Aquaculture Centers in Asia-Pacific: NACA）等の域内協力機関に対する第三国専門家派遣等に係る質問票（案）（英文）を作成する。質問票は、当機構カンボジア事務所及び域内協力機関が所在する在外事務所等を通じて事前配布を行う。

- ②当機構カンボジア事務所及び域内協力機関が所在する在外事務所を通じて回収される質問票を分析し、その結果を団内で共有する。
- ③プロジェクトのPDM(Project Design Matrix)（案）（和文・英文）、PO(Plan of Operations)（案）（和文・英文）及び事業事前評価表（案）（和文・英文）を検討する。
- ④対処方針会議等に参加する。

（2）現地派遣期間（2015年12月上旬～12月下旬）

- ①当機構カンボジア事務所等との打合せに参加する。
- ②カンボジア側関係機関との協議及び現地調査に参加する。
- ③プロジェクトの背景・目的・内容を確認する（要請書や関連報告書等の内容を踏まえた上で、カンボジア側関係機関のニーズを確認する）。
- ④質問票調査を踏まえ、インタビューを通じて、担当分野に係る以下の情報・資料を収集し、現状把握及び課題の分析を行う。
 - ア）カンボジア水産業の概要
 - イ）カンボジアの水産政策における海面養殖の位置づけ
 - ウ）域内協力機関との連携・他ドナーの動向
 - エ）我が国援助方針との関連
- ⑤カンボジア側実施機関のプロジェクト実施体制を確認する。
- ⑥プロジェクト基本計画を検討し、PDM案（和文・英文）、PO案（和文・英文）を作成し、他の団員の作成したものを取りまとめる。
- ⑦関係者との協議で合意された内容について、討議議事録（R/D: Record of Discussions）（案）（英文）及びM/M（案）（英文）の取りまとめに協力する。
- ⑧評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性）の観点から担当分野に係る事業事前評価表（案）（和文・英文）を作成し、他団員の作成したものを取りまとめる。
- ⑨担当分野に係る現地調査報告結果を団内に共有し、当機構カンボジア事務所に報告する。

（3）帰国後整理期間（2016年1月上旬）

- ①担当分野に係る事業事前評価表（案）（和文・英文）を作成し、他団員の作成した評価表（案）を取りまとめる。
- ②収集資料の整理・分析（収集資料リストの作成や、質問票回答、事業事前評価表、PDM案、PO案等の他の調査団員の作成した資料の取りまとめ等も含む）を行う。
- ③帰国報告会、団内打合せ等に参加し、担当分野に係る調査結果を報告する。
- ④担当分野に係る詳細計画策定調査報告書（案）を作成し、全体取りまとめに協力する。

8. 成果品等

本契約における成果品は以下のとおり。

- （1）担当分野に係る詳細計画策定調査報告書（案）（和文）

成果品は電子データをもって提出することとする。

9. 見積書作成に係る留意点

本公示の積算を行うにあたっては、「コンサルタント等契約における見積書作成ガイドライン」（<http://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/quotation.html>）を参照のこと。留意点は以下のとおり。

- （1）航空賃及び日当・宿泊料等

航空賃及び日当・宿泊料等は契約に含めず、当機構より別途支給します（見積書の航空賃及び日当・宿泊料等欄には0円と記載下さい）。

10. 特記事項

(1) 業務日程／執務環境

①現地業務日程

現地派遣期間は、2015年12月6日（12月6日現地着）～12月25日（12月24日現地発）を予定しています。当機構の調査団員の現地調査期間は、2015年12月16日（12月16日現地着）～12月25日（12月24日現地発）を予定しています。

②現地での業務体制

本業務に係る調査団構成は、以下のとおり。

- ア) 総括（当機構）
- イ) 海面養殖（当機構）
- ウ) 協力企画（当機構）
- エ) 評価分析（コンサルタント／本公示分）

③便宜供与内容

当機構カンボジア支所による便宜供与事項は以下のとおり。

- ア) 空港送迎
あり
- イ) 宿舎手配
あり
- ウ) 車両借上げ
全行程に対する移動車両の提供（機構職員等の調査期間については、職員等と同乗することとなります。）
- エ) 通訳備上
なし
- オ) 現地日程のアレンジ
あり
- カ) 執務スペースの提供
なし

(2) 参考資料

①公開資料

本業務に参考となる以下の資料が当機構図書館のウェブサイトで公開されています。

- ア. カンボジア国海洋養殖開発センター建設計画予備調査報告書
<http://libopac.jica.go.jp/images/report/P0000174194.html>
- イ. カンボジア国海洋養殖開発センター建設計画基本設計調査報告書
<http://libopac.jica.go.jp/images/report/P0000248640.html>

②配布資料

本業務に関する以下の資料を当機構農村開発部農業・農村開発第一グループ第一チーム（TEL:03-5226-8445）にて配布する。

- ア. 「カンボジア国持続的な海洋養殖生産技術開発プロジェクト」要請書（写）
- イ. 2014年度海産種苗専門家業務完了報告書（Seed Production Manual of Seabass Lates calcarifer in Cambodiaを含む）
- ウ. 2014年度魚類防疫専門家業務完了報告書（Manual for Fish diseases diagnosis for Seabass (Lates calcarifer) in MARDeCを含む）

(3) その他

- ①業務実施契約（単独型）については、単独（1名）の業務従事者の提案を求めている制度ですので、複数の業務従事者によるプロポーザルは無効とさせていただきます。

②安全管理

現地作業期間中は安全管理に十分留意する。現地の治安状況については、当機構カンボジア事務所などにおいて十分な情報収集を行うとともに、現地作業の安全確保のための関係諸機関に対する協力依頼及び調整作業を十分に行う。また、同事務所と常時連絡が取れる体制とし、特に地方にて活動を行う場合は、当地の治安状況、移動手手段等について同事務所と緊密に連絡を取る様に留意する。また、現地作業中における安全管理体制をプロポーザルに記載する。

③詳細計画策定調査の経験があることが望ましい。

④不正腐敗の防止

本業務の実施にあたっては、「JICA不正腐敗防止ガイダンス（2014年10月）」の趣旨を念頭に業務を行うこと。なお、疑義事項が生じた場合は、不正腐敗情報相談窓口または当機構担当者へ速やかに相談するものとする。

以上